

平成19年4月9日 入学式
学校長式辞

春まさに酣、万物が喜々として新生の季を迎え生命が躍動する中、本日ここに来賓各位ならびに保護者の皆様の御臨席のもと、第四十五回入学式を挙行できますことを、心から嬉しく思います。

ただいま入学を許可した三百二十二名の皆さん、入学おめでとう。こうして壇上に立つと、皆さんのすがすがしい凛とした姿が、実に頼もしく目に映ります。高校へ入学するためには、小学校、中学校へのそれと違って、自らの意志で進路を選択し、自らの力で関門を突破しなければなりません。難関をくぐり抜け、晴れて鹿児島中央高等学校第四十五期生となった今、皆さんの胸の内には確かな覚悟が根を張りつつあると思います。

さあ、三百二十二名一人一人の、鹿児島中央生としての時間が動き出しました。これからの三年間、胸の内にある覚悟を一層堅固なものとしながら、それぞれの夢をはぐくんではしいと思います。そして、夢実現のため、互いに切磋琢磨しながら、豊かな時間を刻んでほしいと思います。

鹿児島中央高校で三年間を過ごすということは、皆さん一人一人の個性と能力を最大限に伸ばすということではなければなりません。その意味で、鹿児島中央高校は「個と集団が共鳴する学校」であります。鹿児島

島中央高校という集団の力が個人を成長させ、一方、個人の力が総体としての集団を成長させる。個と集団が相乗的に高まっていく。鹿児島中央高校は、まさに、そういう学校であります。

しかし、そのような関係が築かれるためには、集団に対して受け身であってはなりません。皆さん一人一人が自分から積極的に働きかけていかなければなりません。授業や部活動、そして、これから経験する皆さんの学校行事等についても同様です。

嫌々ながら受け身的にやるのと、自分から進んでやるのでは、過ごす時間の密度が全く違います。皆さんが大きく打てば大きく応える、それが鹿児島中央高校です。どうか、夢実現へ、自分を高めることに貪欲であってほしい。積極的、主体的な姿勢を堅持しながら、それぞれのかけがえのない三年間を過ごしてほしいと思います。

ステージ左手には、本校創立以来の校是「三綱領五条目」が掲げてあります。三綱領「自主・好学・敬愛」は、鹿児島中央高校生としての在り方の眼目であります。「自主」とは、自らの足で立ち、自らを奮い立たせて一步を踏み出すこと。「好学」とは、学問を好み自ら求めて学ぶこと。「敬愛」とは、先生や友人と交わる中で、己の非力を学び自ら人格を磨くこと。三綱領のいずれもが、「自ら」を高めることへの積極的、主体的な姿勢を求めているのです。

この三綱領を具現化するために、日頃実践すべき徳目を示したものが五条目であります。「志操は高く品格ある青年学徒たれ、

「易きにつかず、学道に専心せよ」、「共励切磋、和して同ずるなかれ」、「自主自律、責任を完遂せよ」、そして「積極敢為、自ら運命を開拓せよ」。それぞれが意味するところを理解し、実践してほしいと思います。

今後、色々な形で先生方がこの五条目に触れると思いますが、今日は五条目の最初「志操は高く品格ある青年学徒たれ」に触れておきます。簡潔に言うところ「高い理想・志を持った品位、風格のある高校生であれ」ということです。

かつて、アメリカのクラーク博士が、札幌農学校を去るとき、学生たちに「ボーイズビーアンビシャス」（少年よ大志を抱け）と語った話は有名です。しかし、その後は、ある言葉が続いています。それは「ノーブル」という言葉です。「ノーブル」とは、「品位、風格があり気高い」という意味です。「ボーイズビーアンビシャス、アンドノーブル」、「少年よ大志を抱け、そして品位、風格あれ」と言うのです。まさに「志操は高く品格ある青年学徒たれ」と軌を一にする言葉です。大きな志の実現には品位・風格が不可欠であるということです。人をいじめたり陥れたり、私利私欲に走ったり、軽薄な流行に流されたり、稚気、すなわち幼稚な気分、子どもっぽい甘えやわがままのなかで生活する人間に志の達成は到底不可能だということです。

鹿児島中央高校は、皆さんが夢をはぐくみ、その実現を目指して切磋琢磨する場所であります。そして、これからの三年間、皆さんの予想をはるかに超える豊かなもの

が皆さんの前に現れるはずです。しかし、その豊かなものを自らのものとできるか否かは、一に皆さん一人一人の在り方にかかっています。どうか、自分の存在に、そして鹿児島中央生であることにプライドを持ち、志を高く掲げて品格ある鹿児島中央生として過ごしてほしいと思います。

保護者の皆様には心からお祝いを申し上げます。今、高校生としての姿に感慨もひとしおであろうかと存じます。本日から本校の生徒としてお預かりいたします。職員一同、責任の重大さを感じていますが、同時に生徒の教育のため、一丸となって精一杯の努力をいたす所存でございます。なにとぞ、本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、来賓各位におかれましては、御多用の中に御臨席を賜り、祝福と激励をいただきましたことを職員一同心から御礼申し上げます。今後とも、本校を見守っていただき、御指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、新入生の皆さんの今の覚悟を表しているような、高浜虚子の俳句を紹介して式辞とします。

「春風や闘志抱きて丘に立つ」

平成十九年四月九日

鹿児島中央高等学校長 獅子目博文